

高齢者シリーズ研修会（第2弾） アンケート集計結果報告書



日時：令和6年10月18日（金）19:00～21:00

開催場所：うるま市健康福祉センターうるみん 3階ホール（うるま市安慶名1-8-1）

テーマ：「身寄りのない高齢者への支援について～あなたが頑張っていること、共有しませんか？～」

周知方法：開催案内文書の郵送、FAX送信

周知範囲：中部地区12市町村の医療介護関係施設（参加対象職種をコントロール）

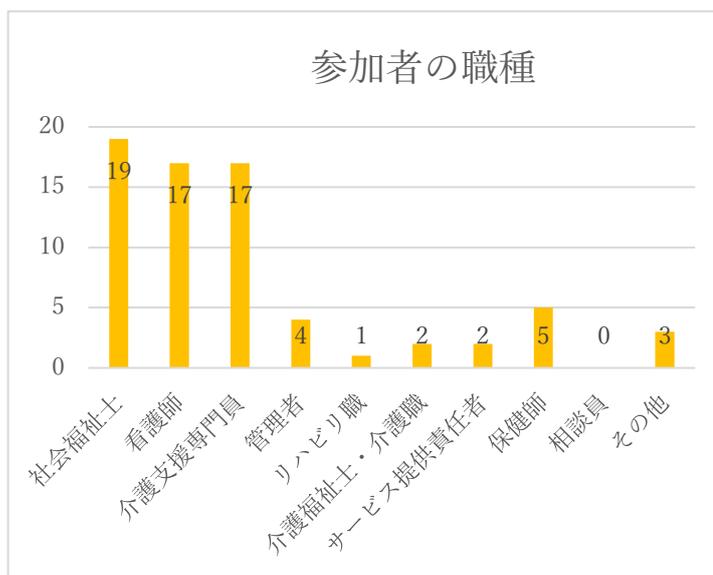
●参加者数

会場 参加人数：92名 アンケート回答数：73名（回答率：約79%）

トータル参加人数 92名
アンケート回答率：79%

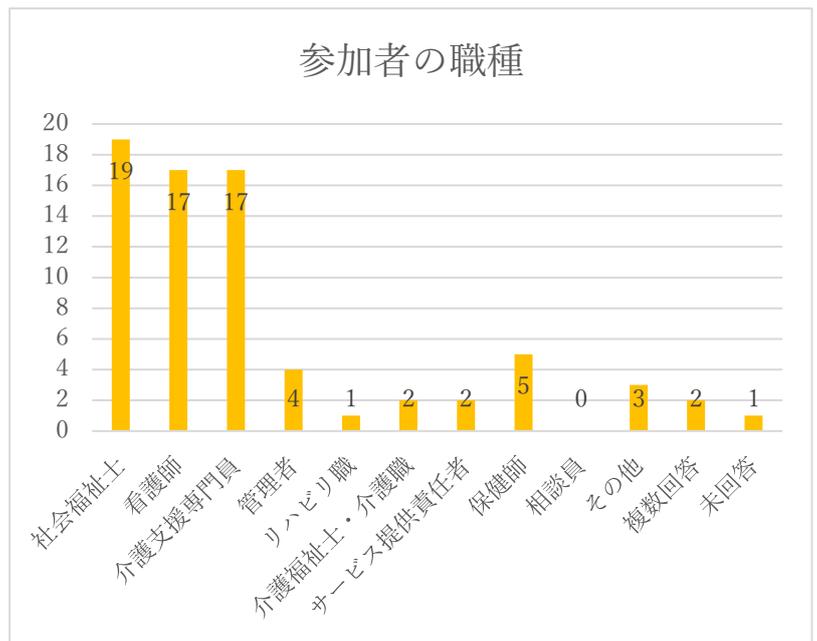
●参加者の事業所種別（n=73）

	数	割合
病院・クリニック	15	20.5%
訪問看護 ST	16	21.9%
訪問介護	3	4.1%
入所介護	2	2.7%
行政	5	4.1%
居宅	13	17.8%
包括	12	16.4%
社会福祉協議会	5	6.8%
その他	3	4.1%
未回答	1	1.4%
計	73	100.0%



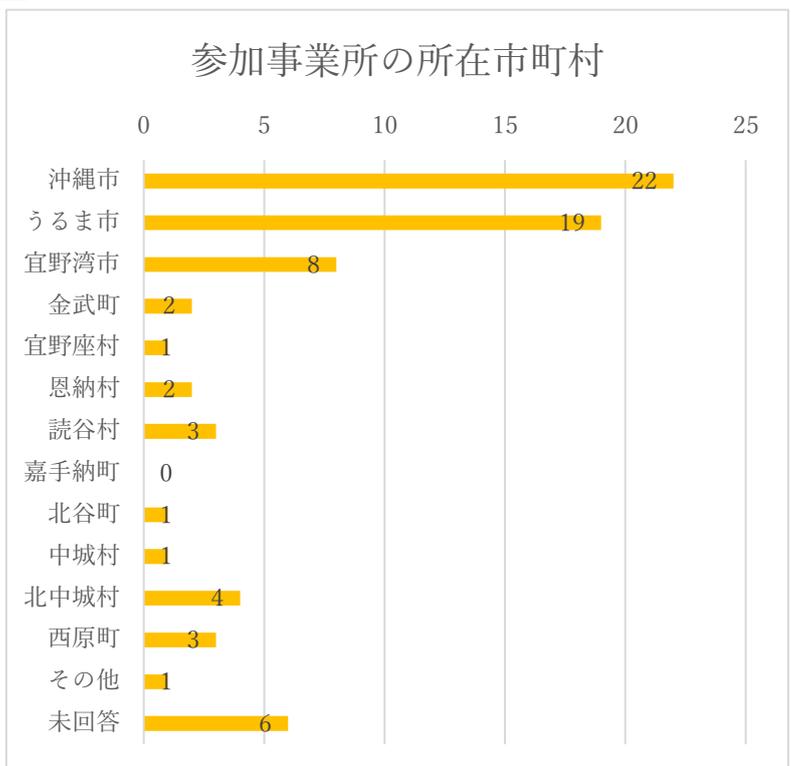
●参加者の職種 (n=73)

	数	割合
社会福祉士	19	26.0%
看護師	17	23.3%
介護支援専門員	17	23.3%
管理者	4	5.5%
リハビリ職	1	1.4%
介護福祉士・介護職	2	2.7%
サービス提供責任者	2	2.7%
保健師	5	6.8%
相談員	0	0.0%
その他	3	4.1%
複数回答	2	2.7%
未回答	1	1.4%
計	73	100.0%



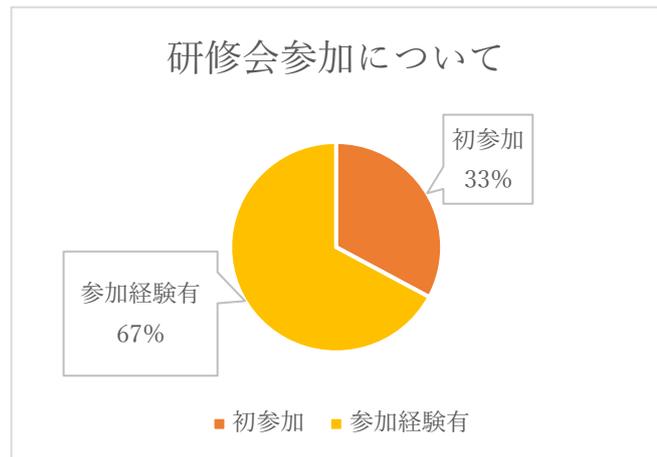
●参加事業所の所在市町村 (n=73)

	数	割合
沖縄市	22	30.1%
うるま市	19	26.0%
宜野湾市	8	11.0%
金武町	2	2.7%
宜野座村	1	1.4%
恩納村	2	2.7%
読谷村	3	4.1%
嘉手納町	0	0.0%
北谷町	1	1.4%
中城村	1	1.4%
北中城村	4	5.5%
西原町	3	4.1%
その他	1	1.4%
未回答	6	8.2%
計	73	100.0%



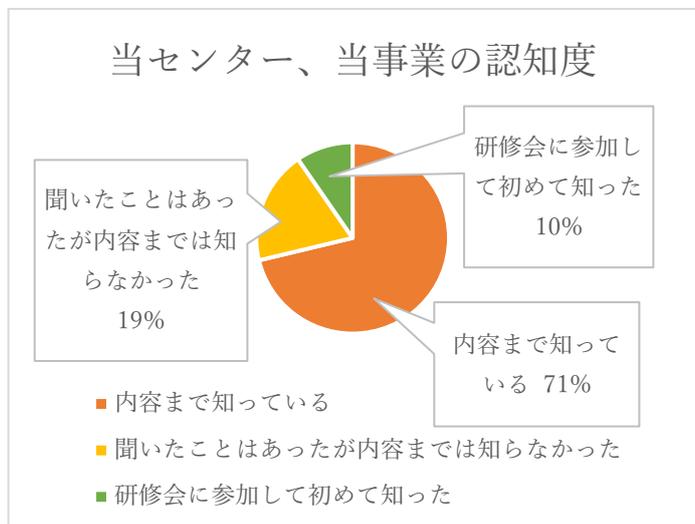
●研修会への参加について (n=73)

	数	割合
初めて参加した	24	32.9%
参加したことがある	49	67.1%
計	73	100.0%



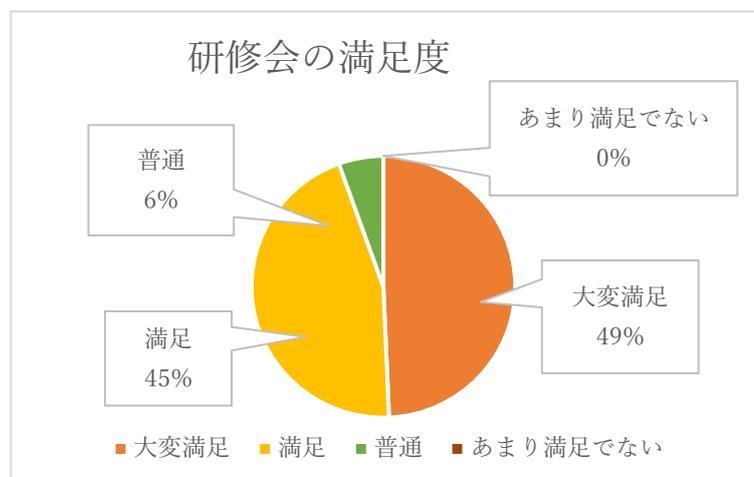
●当センター、当事業の認知度 (n=73)

	数	割合
内容まで知っている	52	71.2%
聞いたことはあったが 内容までは知らなかった	14	19.2%
研修会に参加して初めて 知った	7	9.6%
計	73	100.0%



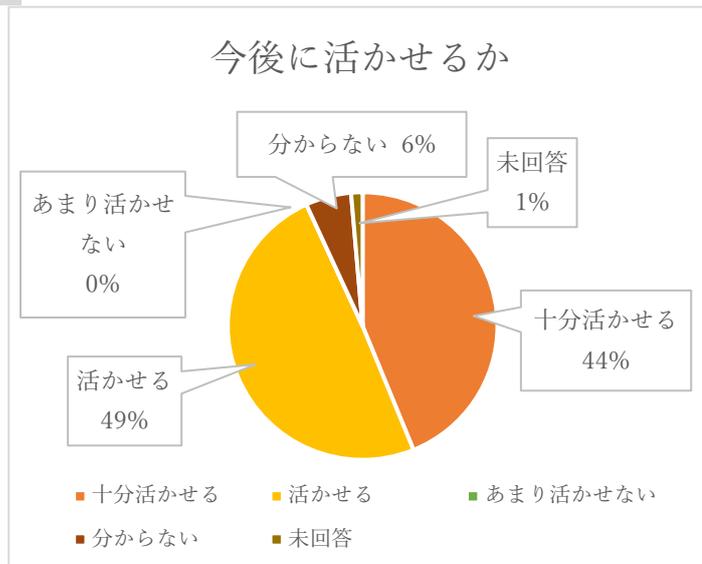
●研修会の満足度 (n=73)

	数	割合
大変満足	36	49.3%
満足	33	45.2%
普通	4	5.5%
あまり満足でない	0	0.0%
計	73	100.0%



●今後の業務に活かせるか (n=73)

	数	割合
十分活かせる	32	43.8%
活かせる	36	49.3%
あまり活かさない	0	0.0%
分からない	4	5.5%
未回答	1	1.4%
計	73	100.0%



●記述式アンケート結果

【当研修会の感想】

1	課題の解決が難しい事もあると思いますが、今回の様に情報共有、グチの共有、工夫の共有でその課題に直面している職員がすくわれると感じました。
2	身寄りのない高齢者の支援の中で、関係性の広がり（依存）について、地域から孤立している方の支援や地域とのつながり方、関わり方について考える機会を持つ事ができました。どの職種も業務外の仕事が多く大変さを感じ共有する事ができました。
3	連携の大切さ、それぞれが役割をこえて支援していたので、気持ちを共有できて良かったです。
4	クライアントと支援者、支援者同士のつながりや信頼関係が重要だと改めて感じました。
5	住まいの課題（家賃・保証人など）へ対応について共有することができました。異種（不動産など）との意見交換をしたいと思います。
6	他職種、みなボランティアで補っていることが多いと感じた。
7	今回、行政の方もいると行政の方たちが困っている事や意見も聞けたのかと思いました。
8	改めて各関係機関がどう役割分担し、連携できるかが大事だと思いました。身内、家族でなくても、工夫をしたらできることはまだまだあるのかなと思いました。もう少し具体的に話したかったです。
9	身寄りのないケースをケアマネが担当する場合、関わる人を増やす事は必要と感じていたが、「本人が依存する場所を増やす」視点がなかったので、いい気付きになった。
10	相互依存、というコトバが良くも悪くも心に残りました。解釈が難しいテーマですが、今日吐き出せて少し発散できました。 沖縄県の現状と将来の見通しについて、とてもわかりやすく今後についてとても考えさせられました。私は社会福祉法人の一事業所の管理者ではありますが、法人として考えなくてはいけない課題があるととても重く受け止めました。
11	各サービス、専門職、行政、地域の関わり連携をし、共有する事がとても大事だと思っていますが、実際、共有する所まで難しいと感じている。今後も今回のような研修会を通し

	て良い方向へ向かえたらと思いました。
12	同職、おおむね似たような悩みがあると知れた。おどろくような悩みもあり、当事業だけではないと少し気持ちが悪くなりました。
13	本業の枠をこえてみんな頑張っているんだと思えた。他職種との連携が改めて重要だと感じた。ありがとうございました。

【今一番必要だと感じるサービス】

1	今回の業務以外の事をになうサービス
2	要支援、要介護に該当しない高齢者の住まい
3	人のつながり
4	医療との連携方法
5	金銭管理の支援が不足している サービス外の支援をしないといけない事への負担
6	身元保証が解決できないとほとんどの支援が進まない現状があり、もう少しハードルを下げて解決に向けた動きができたらと思いました。
7	退院時の連携支援
8	住宅については今後も課題は多くのこるなど感じる
9	高齢者シェアハウス
10	地域の連携（住民・公民館・民生委員）
11	行政側のサポート、バックアップ、後ろ盾
12	空き家の活用方法（シェアハウス等） 行政、支援者がつながる会
13	身寄りのない人のペットや住居の確保難しい
14	日常生活の支援をできるサービスの充実。 しかし、これを充実させると家族がどんどん離れていくことにも…悩ましいです。
15	後見人制度あるがつなぐのに時間がかかるので他の方法はないか？
16	住居の確保（保障）
17	後見人が付くまでの金銭管理サービス 住まいの確保ができない（施設入所や住みかえなどで）高齢者の身元保障の問題の解決につながる制度的サービス
18	行政・介護事業所、病院がチームとなって協働できると良い。
19	もっと行政的にも関心をもってほしい
20	身寄りがいなくても受け入れできる施設や病院が増えるといいなと思います。
21	公共機関への支払い、手続等の代行 医療の意思決定についての決定支援の充実
22	地域力というもの。行政、医療機関、包括ほか重なるサービスをも”共有”して”利用者” （いずれは我が身と思えばこそ）もう一步添って業務にとりくみたい
23	住居入所時の保証人をもっとゆるやかにしてほしい

24	空き家を活用できる法律・制度
25	生活保護を受けている方の支援について、保護課の方が対象者にもう少し興味を持ってほしい。行政の関わり方。自分の仕事はここまでとわりきっている感じがする。
26	急変時、身寄りがない人、KP がきてくれないとナースは地域→病院→行政でどう連携していくかサービス外で必要なこと見て見ぬふりできないことの解決方法
27	家族の代わりになるサービス 地域で行政を含めてルールを作る（身寄りのない方を支えるためのルール）
28	インフォーマルサービスの充実以外に、近隣住民とか自治会などインフォーマルサービス、 いけば友達とか介護保険制度がはじまる前の社会の再来が大切なのかなと思います。
29	支えあえるメンバーを多く作る
30	今回の研修を通して、身寄りのない高齢者の支援について、さまざまな事業所や職種の取り組みについて学ぶこと
31	保険外に関する相談窓口コーディネート（サービスはすでにあることもあるから）
32	貧困の方の病院付き添いサービス
33	同職種や多職種との交流 相手を知ることから多職種の仕事内容を知らない
34	利用者の葬祭で関わってくれる職種、サービスは重要と感じました。
35	行政としては地域支援に従事する包括の負担を軽減できるようなサポートが重要だと感じた。ケアマネのシャドーワークが課題になる状況を少しでも改善できるような取組を考えたい。
36	利用者の終活の確認
37	ACP のパンフレットを是非 70 才になったら配布して、元気な時から支援してほしい
38	身寄りのない方をサポートしていくためのチームを各専門職、各機関でルーチンとして一緒に関わっていただけたいと思いました。
39	互いを知りつながること。お互いできずきをうめあう支えあいが必要と思いました。
40	お泊りデイサービス
41	身寄りのない高齢者は全国的にも増える。公民官や区などでお年寄りがあつまりやすいサロンを作ったり、若者夫婦ではむずかしい庭作業などを代行するようなシステム構築して、包括できていけば

【開催して欲しいテーマや、その他ご要望】

1	感染 HIV 等の受入れ体制（事業所施設）
2	権利擁護（後見人）
3	金銭管理の課題（細かい支援が難しい）
4	身より問題（シリーズ化）
5	今後とも宜しく申し上げます。専門外でも“知る”学びを職場に伝え、一人一人に伝わるようにしたいです。
6	工夫していることを重点的に聞ける時間がほしかったですね。

7	人材不足の課題をどうする?!
8	人材育成、確保
9	このような共有のタイミング
10	自己の意思尊重について（急変時）
11	また同じ内容をやりたい

●結果、考察

前年度実施したアンケート調査結果から、身寄りのない高齢者の増加に伴い、様々な場面で関わる支援者が“業務を超えた・役割を超えた支援”があり、対応に苦慮する状態があると分かった。

本事業の会議体である、身寄りのない高齢者をテーマとした在宅看取り部会ワーキンググループにおいて、“業務の範囲を超えているがやむを得ず行っている支援”内容を支援者間で見える化できるように整理表を作成する事で、業務の役割分担や連携の一助となると考え、整理表の精度を高めるため本研修の開催に至った。

様々な立場から偏りなく意見を拾い上げられるよう、参加対象職種と人数をコントロールし、更に同職種のグループ編成にした事もあり、グループワークでは盛り上がりを見せていた。

アンケート結果から、約95%の参加者が研修会に満足との回答、約93%の参加者が今後の業務に活かせるとの回答があった。また、「情報共有、グチの共有、工夫の共有でその課題に直面している職員が救われると感じた」や「どの職種も業務外の仕事が多く大変さを感じ共有する事ができた」等の感想をいただき、研修タイトルである頑張っている事の共有、研修の目的を概ね達成できたと考えられる。

今回得られた支援内容を整理し、整理表を活用して切れ目のなく身寄りのない高齢者支援へどうつなげていけるか、整理表の活用方法を検討し、連携の一助となるよう発信していきたい。

＼登壇者のみなさま／



＼グループワークの様子／



●各グループワークの記録まとめ

ワーク内容：4つの場面毎の“業務を超えて行っている支援”をたくさん出し合いながら、各自の支援内容や工夫していることを共有する。

参加者職種：ケアマネ、包括、ヘルパー、地域密着型高齢者入所施設、MSW、社協、訪問看護師

入退院支援	療養生活支援	急変時対応	看取り支援
<ul style="list-style-type: none"> ・救急車同乗後、その後の対応 ・入院時緊急連絡先 ・保証人対応（ケアマネと連名） ・利用者入院の際、家族が来るまで病院で待機 ・県外、国外からの家族の為に一時車を貸した ・入院への説得 (個々の意見が分かれる、認識の違い) (「入院しなくていいよ」「いや、入院したほうがよい」) 支援者が説得しているのかは分からない??? ・所持品を預かる ・必要物品の購入・手配・提供 ・トイレ、移乗などの介助 ・他県、他国の家族との連絡調整 ・警察を呼ぶ ・身元不明者の情報収集 ・公民館などに連絡し情報収集 ・自治会長と家族宅への訪問 ・入院手続き ・自宅の片付け（本人不在時） ・送迎（外出支援） ・利用者の家族の入院、お見舞いの送迎 ・外来受診の送迎 ・外来受診の付き添い ・外来時に同席して、受診内容を家族へ共有する。 ・治療の意思決定 ・洗濯機をまわす、干す（量は少し） ・役所への各種手続き ・介護保険の申請（医師からも依頼あり） ・銀行への各種手続き ・家屋の修繕手配、仲介、付き添い ・住まい退去手続き ・アパート退去、転居時の片づけ ・引っ越しの手伝い ・携帯電話の各種手続き（契約、解除など） ・自宅の各種管理（自転車保管、清掃） ・家電の修理 ・ペットの世話（預け先探し・食事） ・サッシのない木戸、家が汚い（見て見ぬふりできな 	<ul style="list-style-type: none"> ・後見人との連絡 ・親族ではない方への協力依頼 ・鍵を預かる ・誰もいない家に入る（必ず2人で） ・通帳、キャッシュカード、印鑑探し ・役所への同行 ・役所への手続き ・金融機関への同行 ・金融機関での各種手続き ・金銭管理（現金預かり〇〇〇万円） ・送迎（美容室） ・図書館で本を借りる ・生活保護や介護保険の申請 ・急迫保護の代理申請 ・保険証の各種手続き ・年金の手続き ・障害サービス申請の手続き（公共支援手続き） ・日用品、食料品の買い物、準備（頻回） ・支援外の買い物 ・急な買い物依頼 ・買い物支援時の同乗依頼 (買い物支援時に車に乗せてと言われる) ・調理 ・家電の購入、設置（テレビ、エアコン、電球） ・貴重品を患者宅に取りに行く ・退院後の部屋の片付け、掃除 ・支援前の大掃除 ・環境整備 (ネズミ捕り、広範囲失禁、提供時間外の対応) ・(入院中) 家中に発生した害虫駆除 ・自治会から庭の草刈り ・家屋の修繕（屋根、アンテナ） ・ペットの世話（散歩、排泄物処理） ・日々のゴミ出し ・ごみの回収（ごみの日にゴミを出せていない） ・ゴミ箱の設置 ・洗濯機をまわす ・洗濯物を干す（量は少し） 	<ul style="list-style-type: none"> ・夜中の搜索 ・警察へ身元引取り（サイン） ・緊急時の対応（休日夜間にコール） ・搬送時の対応（何でも連絡がくる） ・救急車への同乗（CMへの引継ぎまで） ・救命の中止時、消防へのサイン ・身寄り、キーパーソン探し ・キーパーソンへの連絡 ・治療方針決定の場への同席 ・入院への説得 (お金なく入院できない。いや入院でしょ。病院受け入れ×) ・認知症母へ息子の病状と治療方針の説明と同意。 ・サインがなく、病院判断でサインしているかも？ ・緊急連絡先になる（立候補） ・提供時間外で行っていることが大変。 ・家族が来るまで病院で待機（時間外対応） ・院内の付き添い ・安否確認（大家から夜中の依頼・デイサービス休日） ・病院受診の付き添い ・入院時の付き添い ・入院手続き ・健康相談、受診の判断 ・夜中の対応（転倒） ・体調不良時の判断 ・急変時の判断 ・体調不良時の電話対応 ・本人の不安、不穏による休日の電話対応 ・救急受診の対応 ・救急外来への移送 ・自宅のカギを預かる ・居住問題 ・家が足の踏み場なく玄関閉まっている→窓から入る。 ・公共サービス停止の手続き（電気、水道、ガス） ・台風時の対応（避難、食料の買い出し） ・支援者が精神疾患を抱えている ・同居家族の急変への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・県外、国外の家族への連絡 ・親族以外への連絡（元彼女） ・退院時の送迎 ・意向確認の促し ・逝去後の納骨場所の検討サポート ・お墓の契約同行 ・アパートでの看取りの時、オーナーさんとの交渉 ・看取り開始の代理判断（キーパーソンが後見人） ・時間、サービス外の待機 (看取り時、行政が来るまで待つ) ・(ご遺体の引取りまで自宅で待機) ・死亡診断書の受け取り ・火葬のボタンを押した（課長） ・葬儀会社との交渉 ・福祉葬 ・行政との調整 ・死亡届の提出 ・ペットの引き取り先調整 ・死後の居室、自宅の片付け、清掃 ・家賃未払いの対応 ・契約物の解除（手続き） ・遺品の預かり ・遺骨を預かる ・金銭や財産の処分

<p>い)。生保の方がほとんど→ 保護課相談したが、仕事ではないと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族に家の掃除頼まれる(入院した後の) ・在宅退院の方針を病院へ打診し、退院支援 ・入院、転院の同意 ・転院、入所、入居先の調整(見学同行・面談同席) ・アパートの保証人問題 ・転院時の付き添い ・後見人がつくまでの支援 ・自助グループ案内、同行 ・施設入居後のフォロー <p>(担当会議の参加、症状悪化時の受け入れ約束など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通院中断している方の自宅へ訪問 ・近所への挨拶回り(同行者いないか) ・車いすの方を3階まで持って上げた←家から出ることがまず大変 ・エンゼルケア料金を支払う(生保の場合) ・夫婦喧嘩の仲裁 ・利用者家族の障害サービス支援調整 	<ul style="list-style-type: none"> ・お昼寝中の呼吸見守り ・家電の修理 ・家電、家具の設置(トイレの便座) ・電気をつけてほしい ・クーラーついているかの確認 ・水道がなく、処置のために水を運んだ。 ・おこづかいをあげた ・お金を貸した、行政が100円払った ・介護サービス、保険外サービスの未払い ・公共料金の支払い(電気、水道) ・公共料金の各種手続き(支払い、変更) ・携帯電話の各種手続き同行(変更、修理、購入) ・差し入れ(衛生用品、食べ物、おやつ) ・配達(フードバンク書類) ・お弁当屋に代わって未収金の手伝い ・親族の行事参加(孫の運動会) ・夫婦喧嘩の仲裁 ・引っ越しまでの片付け、後の掃除 ・引っ越し作業 ・受診の促し(連絡入れ) ・訪問診療へつなげる ・登録されている電話番号が違っていると、調べてと言われる。 ・郵便物の管理 ・施設入所の送り ・体調不良時の判断 ・保険診療により、見守りサービス(独居) ・受診の付き添い、送迎 ・検査や手術の説明への同行 ・支援方針の決定 ・処方箋、内服の受け取り(緊急時や限度額) ・課がリストアップしているが、実際に会うところから難しい ・地域のつながりの再構築 ・家族支援(家族はいるが、家族の知的な課題があり、支援に入っている家族をまるごと支援。支援を必要とする家族の支援先へつなげる) 		
---	--	--	--